

第27回京都市西京まちづくり区民会議 意見の概要

第4章 まちづくりの取組

第1節 人と人との支え合う区民が主役のまちづくり

分類	概要	発言者
地域コミュニティ	どの地域も高齢者を支える方も高齢化してきている。伏見区では龍谷大学の学生が住み、自治会活動に参加しており、学生が地域に入れば、新しい動きも出てくるだろう。	白須委員
	子育てについて活動したい方は多くいるが自治会や社会福祉協議会とつながりがなく、橋渡し役がいれば活性化できるのでは。	鈴木委員
地域の絆づくり	支援を求める方を支える自治会や各種団体を担う人たちが減少している中で、支える側にも力を注いでいく必要があるため、自治会加入の促進が必要。	宮崎委員
	災害時には助けられる側になることを前提に日頃から助ける側の必要性をアピールする必要がある。	吉田委員
	- 福祉型 NPO、事業型 NPO 等、社会的課題に対して集まる人材を巻き込んで（地域を支える）主体として位置付けられないか。 - そういった人材はあくまで個人であり、地縁組織や社会福祉協議会等が束ねて地域の力に変えていく視点が必要。	深川委員
	- マンションやコーポ居住者には自治会加入の声がかからないということがある。 - 民泊経営者が外国人だと言葉が通じず、自治会加入を断念し、地域活動からも外れてしまっている。	井上委員
	- 単身で2～3年しかマンションに住まない方は、自治会に入っていないのが現状だ。 - 困りごとは区役所だけではなく地域にも相談してもらい、自治会が様々な相談に乗ってできる範囲のことをする。その結果、自治会に入ってよかったという話が広がればよい。 - 若い人から年配の方たちは時間があるという意見が出たことがあるが、注意すべきは地域の見守り等は用事を割いてやっているボランティアであること。 - 地域の担い手は定年後の人が多いが、定年までは一生懸命に働かなければならず、融通の利く人はわずかなことから、今後の担い手確保はますます難しくなる。	小石議長

分類	概要	発言者
地域の絆づくり	・地域の方と顔が近くなり、少しずつ地域の輪に入ること で、自治会に入る方も増えるのでは。 ・防災訓練等を通じて自治会加入のメリットを説明する ことが効果的だろう。マンション住まいの子育て世代 は何かあったときの対応や避難場所への関心が高い。	井上委員
	・水害で避難所を開設した際、自治会に入っている方は 食べ物を持って高所に避難し、自治会に入っていない 方は手ぶらで避難所に避難されていた。	小石議長
	・自治会に入らない人に呼び掛けても振り向いてもらえ ない。振り向いてもらえるような取組やアピールが必要。 ・防災訓練は非自治会員にも参加してもらい、行事も回覧板 で全てお知らせしている。 ・自治会加入率は何とか現状を維持している。高齢化に 伴い減少するのは当然。 ・自治会加入のメリットを見える化しようと検討中。振り 向いてもらえるメリットを見つけることも重要。	山本委員
	・加入者減少とともに役員の担い手がいない。高齢者は できない人がほとんどで、子育て中の若い方に担って いただくことも難しい。 ・非自治会員で防災訓練に興味を持つ人もおり、自治会側 で受け入れてもらいたい。 ・社会福祉協議会の茶話会等で、非自治会員の高齢者を 誘っていいか悩むが、私は誘いたい。来ない高齢者がい ると民生委員が家に行くので見守りにもなる。	安田桂子委員
	・非自治会員の高齢者も茶話会等に誘って欲しい。地域 の皆さんと話をすれば、認知症予防にもなり、自治会 のことも考えていただけるようになる。	小石議長
	・町会長から仕事が多い、回覧物も多いと悲鳴が出た。 ・高齢者以外でも卒業感覚で自治会を抜ける方が増えて いる。 ・集金や役務の負担感が強く、市政協力委員は自治会と オーバーラップして、自治会に入った途端に仕事を させられる思いがある。 ・これまでの仕組みが通じなくなっているのかもしれ ないが、以前からの慣習を守らねば困るという地域も あり、連合会として介入もしづらく、もどかしい。 ・声さえ掛ければ気軽に付き合ってくれる若い方もおられ、 負担感よりも楽しさを前面に出してつないでいく必要 がある。	河原委員

分類	概要	発言者
地域の絆づくり	・自治会加入を義務付けなければ、いずれ自治会活動は廃れるだろう。 ・自治会に入ると入っていない人の市民しんぶんや回覧物も配らなければならない、募金が入っている人にしか集金しないので加入がデメリットのように思われている。 ・各学区自治会に発言力をいただければ、加入促進が前進すると考える。	山本委員
	・昔流は通用しないので新しい発想が必要。例えば公園で日曜の朝に歩く教室等を行う。地域にはヨガや歩く教室をしたい人が必ずおり、そういう人が自分の存在価値を見つけて実現していく。 ・若い人が対応しづらいシステムを変えるべき。集金はキャッシュレス時代なら自動引き落としやスマホ決済も可能ではないか。テレビの取材を受けるくらいに斬新なことをしてはどうか。	鈴木委員
	・体育振興会は小さな地域単位で活動しており、自治会も小さい単位で協働する事業に取り組んではどうか。	上田委員
福祉	・受け手と支え手が一体であることが地域包括ケアの理念だが現実的には社会性の疲弊などによって分離している構図にある。	深川委員
	・社会福祉協議会は体制を強化しても、人員が追いついていない。 ・学区社会福祉協議会や民生委員は無償のボランティアで人間的な問題から全ての困っている人に関われない。 ・つながりができない理由を考え、互いに寄り添っていかなければならない。 ・民生委員は定年が75歳。会社の定年が延びれば未経験者が民生委員になる。自治会長も未経験者が手探りでやっているが、導いていくことが本当に難しい。少しでも前進させるためには、見える化が重要になる。 ・共同募金額が減少した。募金が地域福祉に還元されることが周知されていない。若い人で関心の薄い人も多く、危機感を抱いている。	小石議長
次世代育成	・青少年の問題に関係する団体は、保護司会のほか、地域生徒指導連絡協議会、少年補導委員会等があるため、整合性を確認して表に出して欲しい。	小石議長
健康	・健康寿命を長くすることが重要。西京区は医療施設が整っており、緊急医療への対応も充実している。	白須委員
安心・安全	・中京区で開催のシニアカーの講習会に参加したが、シニアカーは歩行者扱いで講習会を受けないと正しく乗りこなせないため、西京警察に講習会の実施を依頼した。	鈴木委員
	・シニアカーが道の真ん中を走ると渋滞となり、ルールを守らないと大変危険なため、事故対策は必須。	小石議長
	・ブロック塀の危険性が浸透していない。自治会を通じて策を取ってもらいたい。	上田委員

第2節 環境と共生するまちづくり

分類	概要	発言者
自然環境	・小畑川のうっそうとした樹木をきれいにすべき。 ・ホタルが生息するような川もあるので、具体的な川の名前も書いてもらいたい。	藤本副議長
歩くまち・京都	・自転車の日常の利便性向上が伝わらない。民間事業者と連携し、通勤・通学での自転車利用の文言を入れてもらいたい。	藤本副議長
	・洛西方面は坂もきつく、電動自転車についても触れるべきだろう。	小石議長
	・181番（自転車交通の推進）に安心・安全とマナー向上のことを明記していただきたい。自転車自体が嫌われてしまうことを危惧している。	井上委員
脱炭素・循環型社会	・プラごみ対策はボランティアの努力が見える化されていない。SNS等を活用し、見える化できないか。	吉田委員
農業	・柿街道や塚原産タケノコ等、今ある資源を活性化させる取組も必要。	鈴木委員

第3節 人と歴史・文化が輝くまちづくり

分類	概要	発言者
観光	・「とっておきの京都」では西京区が重要な地域。観光セクションと連携し具体的に書き込んでどうか。	白須委員
	・行政よりも区民が地元のよいところを見つけてPRすれば観光客も増えるのでは。	井上委員
	・西京の観光ポイントは道が狭く、地域から苦情も出ている。素晴らしい場所を守るため、地域との関係性を大事にしたい。	小石議長
学術・医療機関等連携	・他区も含めて大学は地域に少しずつ出てきている。逆に地域からも大学で講義をして、地域のことを知ってもらうことも大事だろう。	小石議長
	・榎原町家灯籠会という地域活動で京都大学院と連携している。駅から榎原まで距離があるので、少し手前の既存町家等を活用した大学生が活動するスペース確保を検討中。	鈴木委員

第4節 いつまでも住み続けられる都市基盤が整うまちづくり

分類	概要	発言者
新交通ネットワーク	・新たな交通ネットワークについて市の政策と整合を図る必要がある。 ・新たな公共交通ができて車も利用し続ける人が多い。区民が車を控え、公共交通や自転車で出かけるスタイルを身につけ西京のステータスになるような雰囲気醸成すべき。	井上委員

分類	概要	発言者
職住近接	・働く場の創出支援の具体的な方向性を確認したい。	吉田委員
	・大規模店舗は、五条通、桂駅周辺、洛西周辺でしかつukれない。身近なところでの働く場の創出は良好な住宅を守りながら進める必要がある。	宮崎委員
	・市として産業誘致の助成もあるがそれだけでは企業は集まらない。事業者に目を付けてもらえる政策が必要。	
	・ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの流れに乗り、シェアオフィスやコワーキングスペース等低価格で活用できる場を桂辺りに設け、核になる人がいれば新しい産業が起こるのでは。	白須委員
	・西京区は企業数が少ないと言われるが、生活だけでなく仕事もできる場所が必要。まったく新しいものではなく、今あるものを上手に利用しなければ、難しい問題が起こる可能性がある。	小石議長

その他

分類	概要	発言者
全般	・本文中に具体的な数字が少ない。初めて見る方は数字で理解されるので、数字を入れる努力をして欲しい。	藤本副議長

第5章 実現に向けて

分類	概要	発言者
第2節 計画の推進体制	・「区民と行政との連携による取組の推進」の「プロジェクトチーム」のイメージを伺いたい。	藤本副議長
	・重点取組の次世代へつなぐプロジェクトを具体化するにあたり、市民や各種団体の意見を聞きながら進めるためのチームを想定している。	宮崎委員
	・西京・洛西の活性化ビジョンのプロジェクトチームのように違った切り口で見ることで新しいものができればよいのでは。	小石議長